

5月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

鮮やかに咲いた桜も散り、気温の上昇と共に、次は藤棚の花がきれいに咲いている幼稚園です。暖くなるにつれて、小虫や植物も存在を誇示するように私たちの目に止まるようになってきました。少しずつ毎日の流れにも慣れ始め、意欲的に遊んでいる子どもたちを微笑ましく見えています。

幼稚園では、朝登園したらコーナー保育が始まります。どこで、誰と、何をするのか？先生からの指示はありません。すべて自分たちで考えて遊びが始まります。天気の良い日は、園庭で遊んでいる子も多いのですが、園庭での風景も時期によって異なります。特に4月、5月の園庭での遊びは、見ているとおもしろい光景がそこにあります。

園庭は遊具だけでなく、砂場で使うスコップやカップ、フラフープ、木製ポックリ（木で作られた土台に足をのせ、ひもを持って歩くおもちゃ）など、様々な道具も自由に使って遊べるのですが、子どもたちを見ていると本来の用途通りに使っている子はほとんどおらず、長いスコップをズボンに突き刺し、木製ポックリをたすき掛けのようにかけて、フープをハンドルのようにしながら走り回っているのです。子どもたちにとってのスコップは？木製ポックリは？フープは？大人が描いているような道具ではないのかもしれませんが、もちろん振り回していたり、放り投げたり、危険が伴うような場合は教諭が制止するようにしますが、できる限り子どもたちの発想を大切に見守るようにしています。

大人から見ると何の意味もない、目的があるわけでもないただただアクセサリーのように持ち運んでいる使い方でも、子どもたちにとっては自分で考えた立派な遊びになっているのです。ついつい、「スコップはこうやって使うの！」「木製ポックリはこうやって乗るの！」と道具の使い方を教え、正しい遊び方を身につけさせたくりますが、本来子どもたちが展開する遊びというものは、大人が思うものとは真逆なのかもしれません。

あるお友だちがスコップをヒーローの剣に見立ててズボンに突き刺していると、別のお友だちがそれを嬉しそうに真似をして、そこから2人で楽しそうに遊ぶ姿がありました。「一緒にあそぼう！」と声を掛け合う訳でもなく、ただただ楽しそうな空間を共有するだけで、一緒にいて心地よいお友だちという存在に気付いていきます。遊びを通じて子どもたちは、様々な力を身につけ、大きく成長していくのです。これからも子どもたちのありのままを見守り、子どもたち自身が成長していく姿を応援していきたいと思えます。

【年主題】

「さあ、漕ぎだそう 奏でよう」

【年主題聖句】

「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(ヨハネによる福音書14章6節)

5月主題 「感じる」

聖句 「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなささい。」

(ルカによる福音書5章4節)